2010年3月期　決算説明会

2010年5月17日
宝ホールディングス株式会社

・宝ホールディングスの大宮です。
・本日はお忙しいところ、当社グループの2010年3月期の決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の内容

1. 宝ホールディングス連結
   - 2010年3月期　決算レビュー
2. 宝酒造グループ
   - 2010年3月期　決算レビュー
   - 2011年3月期　活動計画、業績予想
3. 宝ヘルスケア社概況
4. 宝ホールディングス連結
   - 2011年3月期　業績予想、活動計画

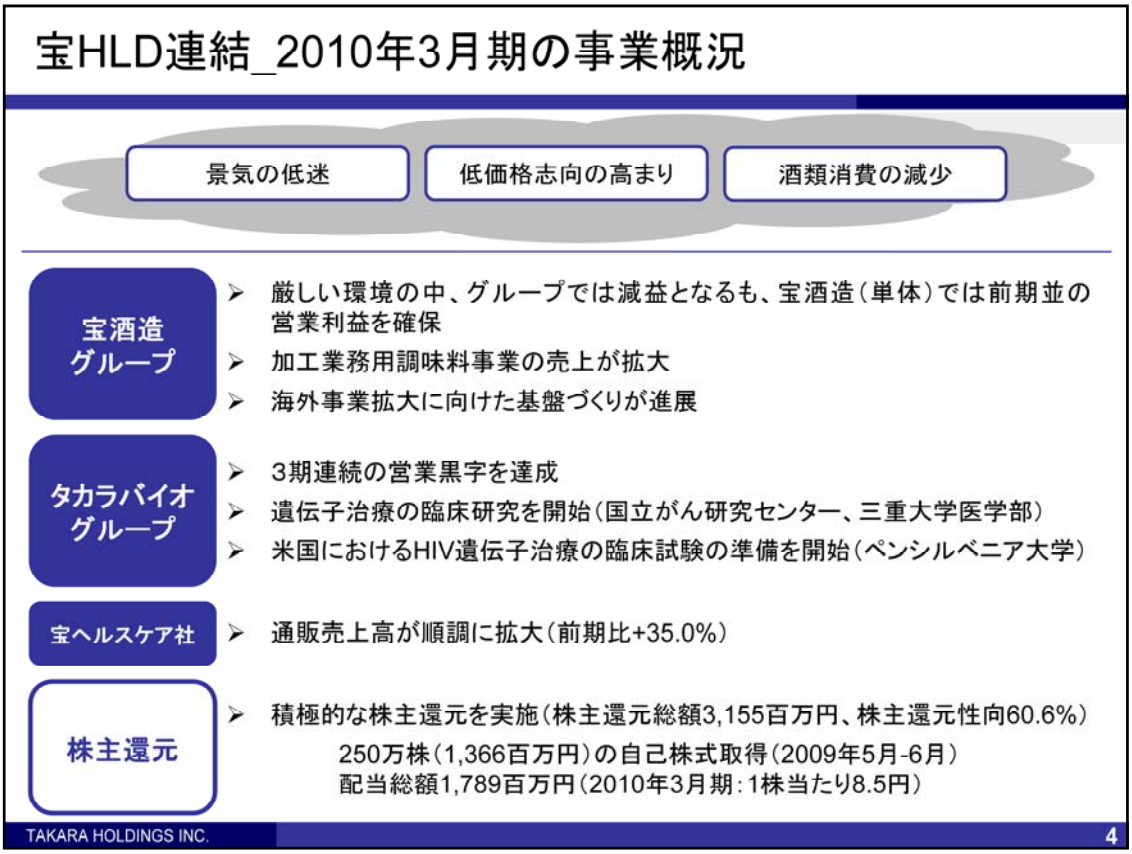
・本日はご覧の順に説明します。

1．宝ホールディングス連結

2010年3月期　決算レビュー

TAKARA HOLDINGS INC.　3

・宝ホールディングス連結の2010年3月期の事業概況ならびに決算について説明します。



・2010年3月期の事業環境は、景気の低迷によって低価格志向が高まり、酒類の消費も減少するという厳しい環境でした。

・そのような中、宝酒造グループにおいては、特に下期に入ってから非常に厳しい市場環境となり、グループでは減益となりましたが、宝酒造単体では前期並みの営業利益を確保することができました。
・また、成長事業として位置付けている加工業務用調味料事業の売上が拡大したほか、海外事業拡大に向けた基盤づくりが進展しました。

・タカラバイオグループにおいては、遺伝子工学研究分野の事業拡大・安定化が順調に進展し、3期連続の営業黒字を達成することができました。
・遺伝子医療分野では、国立がん研究センターおよび三重大学医学部において遺伝子治療の臨床研究を開始したほか、米国でのHIV遺伝子治療の臨床試験を開始するため、ペンシルベニア大学と共同研究契約を締結しました。

・健康食品事業を行う宝ヘルスケア社では、通販売上の拡大に向けた施策を実施し、通販売上高は前期比35%の増収となりました。

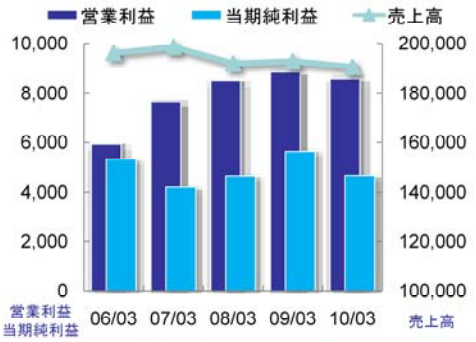
・株主還元では、250万株の自己株式を取得するなど積極的な還元策を実施しました。

宝HLD連結_P/L概要（2010年3月期）

（単位：百万円）	10/03 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	11/5予想比 増減	11/5予想比 率(%)
売上高	190,525	△ 2,265	△ 1.2	△ 1,774	△ 0.9
宝酒造G	166,969	△ 2,331	△ 1.4	△ 2,330	△ 1.4
タカラバイオG	19,325	411	2.2	625	3.3
その他	4,229	△ 345	△ 7.6	△ 70	△ 1.6
売上原価	115,805	△ 3,043	△ 2.6	△ 894	△ 0.8
売上総利益	74,719	778	1.1	△ 880	△ 1.2
販管費	66,146	1,056	1.6	△ 553	△ 0.8
営業利益	8,572	△ 278	△ 3.1	△ 327	△ 3.7
宝酒造G	7,129	△ 335	△ 4.5	△ 370	△ 4.9
タカラバイオG	553	126	29.7	88	19.0
その他	889	△ 69	△ 7.2	△ 45	△ 4.8
営業外収益	923	△ 159	△ 14.7	23	2.7
営業外費用	769	△ 464	△ 37.6	△ 30	△ 3.8
経常利益	8,727	26	0.3	△ 272	△ 3.0
特別利益	137	△ 632	△ 82.2	137	-
特別損失	655	△ 621	△ 48.7	355	118.6
税引前当期純利益	8,208	15	0.2	△ 491	△ 5.6
法人税等	3,317	1,016	44.2	△ 182	△ 5.2
少数株主利益	214	△ 38	△ 15.3	14	7.0
当期純利益	4,677	△ 962	△ 17.1	△ 322	△ 6.5

●利益・売上高推移

（単位：百万円）



●営業外・特別損益の主な内容

（単位：百万円）

- 当期：受取利息・配当金 486
  （前期：受取利息・配当金 771）
- （前期：為替差損 438）
- （前期：固定資産売却益 700）
- （前期：投資有価証券評価損 524）

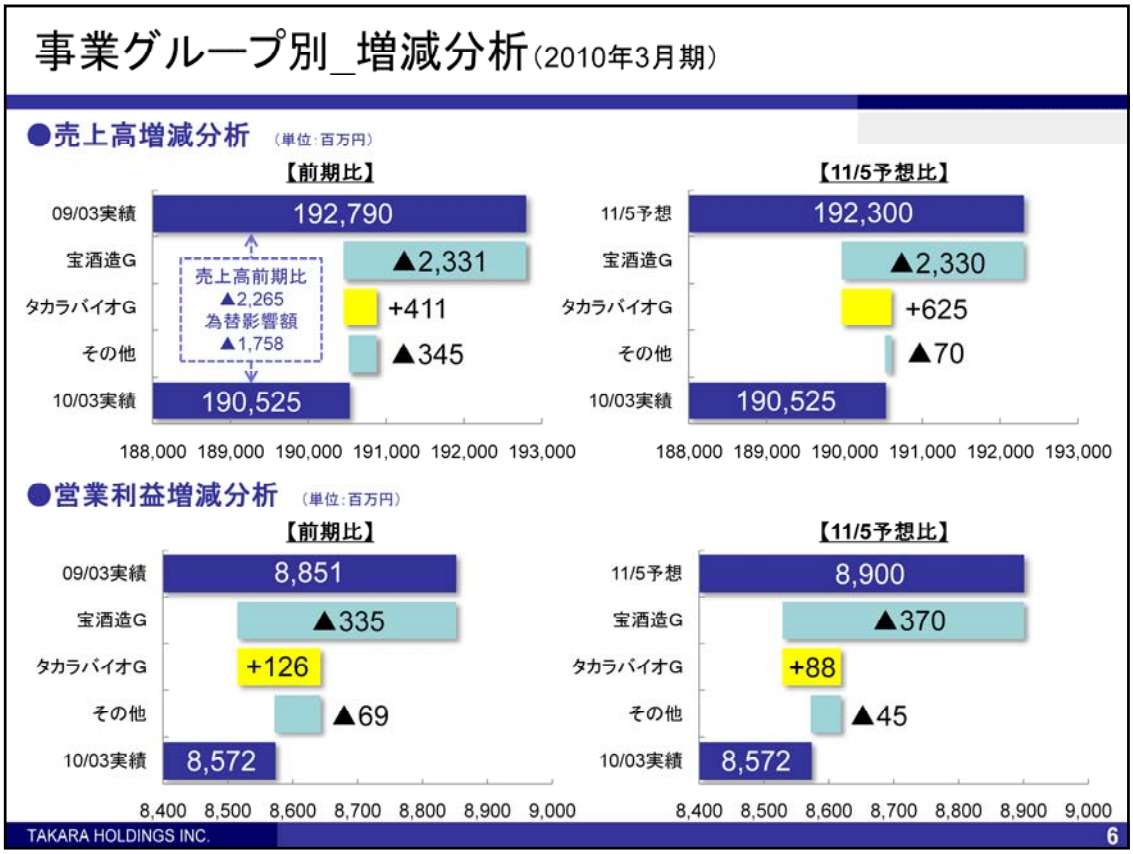
※補足：09/03期の当期純利益について
土地売却に伴い、以前、税務上損金不算入であった損失が確定し、繰延税金資産を計上するという特殊要因が発生したため、一時的に当期純利益が大幅に増加していた。

TAKARA HOLDINGS INC. 5

・2010年3月期の決算の概要です。

・前期比では為替変動の影響が売上高で▲1,758百万円、営業利益で▲113百万円あり、売上高は2,265百万円減収の190,525百万円、営業利益は278百万円減益の8,572百万円となりました。
・一方、前期に発生していた為替差損がなくなり、経常利益では26百万円増益の8,727百万円となりました。

・なお、当期純利益は、962百万円の減益となっていますが、これは2009年3月期に、土地売却によって、以前、税務上損金不算入であった損失が確定し、法人税等が大きく減算されるという特殊要因が発生し、一時的に当期純利益が大幅に増加していたことが影響しています。



・グループ別の売上高と営業利益の増減分析です。

・前期比では、為替の影響がマイナスに働くなか、タカラバイオグループは増収増益、宝酒造グループおよびその他は減収減益となりました。

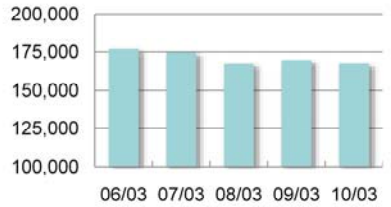
・昨年11月5日に発表した通期業績予想比では、タカラバイオグループで売上高・営業利益ともに予想を上回りましたが、宝ホールディングス連結では売上高・営業利益ともに予想を下回りました。

・宝酒造グループの2010年3月期決算および2011年3月期の活動計画と業績予想について説明します。

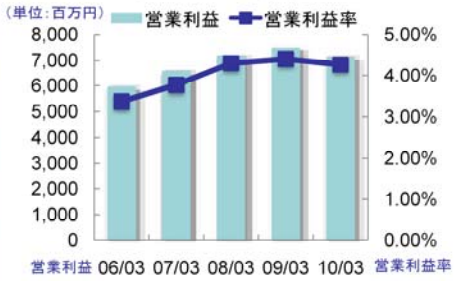
宝酒造G_P/L概要（2010年3月期）

（単位：百万円）	10/03 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	11/5予想比 増減	11/5予想比 率(%)
売上高	166,969	△ 2,331	△ 1.4	△ 2,330	△ 1.4
焼酎	76,214	△ 568	△ 0.7	△ 1,885	△ 2.4
清酒	21,223	△ 1,337	△ 5.9	△ 276	△ 1.3
ソフトアルコール飲料	21,285	716	3.5	△ 214	△ 1.0
その他酒類	9,734	△ 1,263	△ 11.5	△ 265	△ 2.7
本みりん	15,027	△ 660	△ 4.2	△ 72	△ 0.5
その他調味料	6,555	699	11.9	155	2.4
原料用アルコール等	6,224	778	14.3	124	2.0
その他	10,704	△ 695	△ 6.1	104	1.0
売上原価	104,046	△ 3,080	△ 2.9	△ 1,453	△ 1.4
売上総利益	62,923	749	1.2	△ 876	△ 1.4
販管費	55,794	1,085	2.0	△ 505	△ 0.9
運送費、保管料	6,293	16	0.3	△ 106	△ 1.7
広告宣伝費	3,706	△ 19	△ 0.5	6	0.2
販売促進費等	29,454	1,083	3.8	△ 245	△ 0.8
研究開発費	371	17	4.9	△ 28	△ 7.0
管理費、その他	15,967	△ 12	△ 0.1	△ 132	△ 0.8
営業利益	7,129	△ 335	△ 4.5	△ 370	△ 4.9

●売上高推移



●営業利益・営業利益率推移



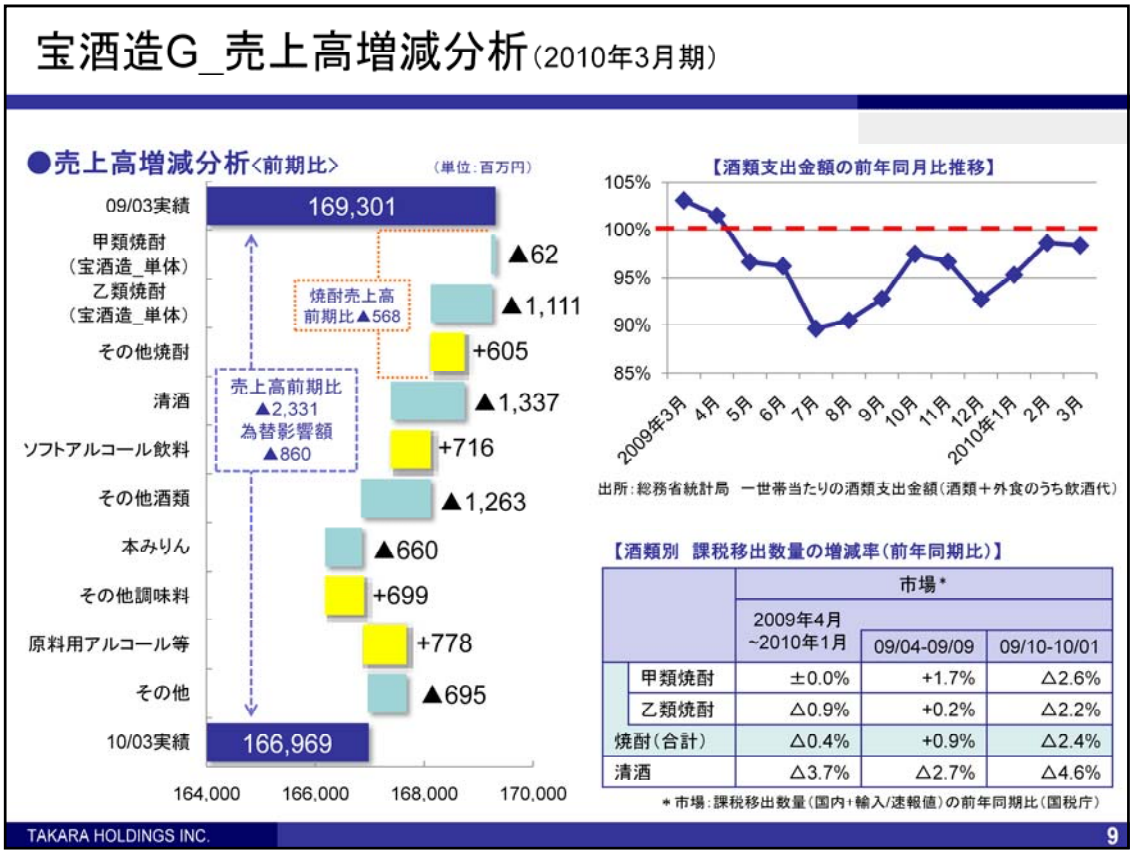
10/03実績	前期差	11/5予想差
4.27%	▲0.14p	▲0.16p

TAKARA HOLDINGS INC. 8

・宝酒造グループの損益の概要です。

・売上高は前期比2,331百万円減収の166,969百万円となりました。
・コストダウンはありましたが、景気低迷による子会社の減収減益や、消費者の低価格志向に伴う商品構成の変化の影響などもあり、営業利益は前期比335百万円減益の7,129百万円となりました。

・為替変動の影響は、売上高で▲860百万円、営業利益で▲73百万円です。



・売上高の増減を確認します。

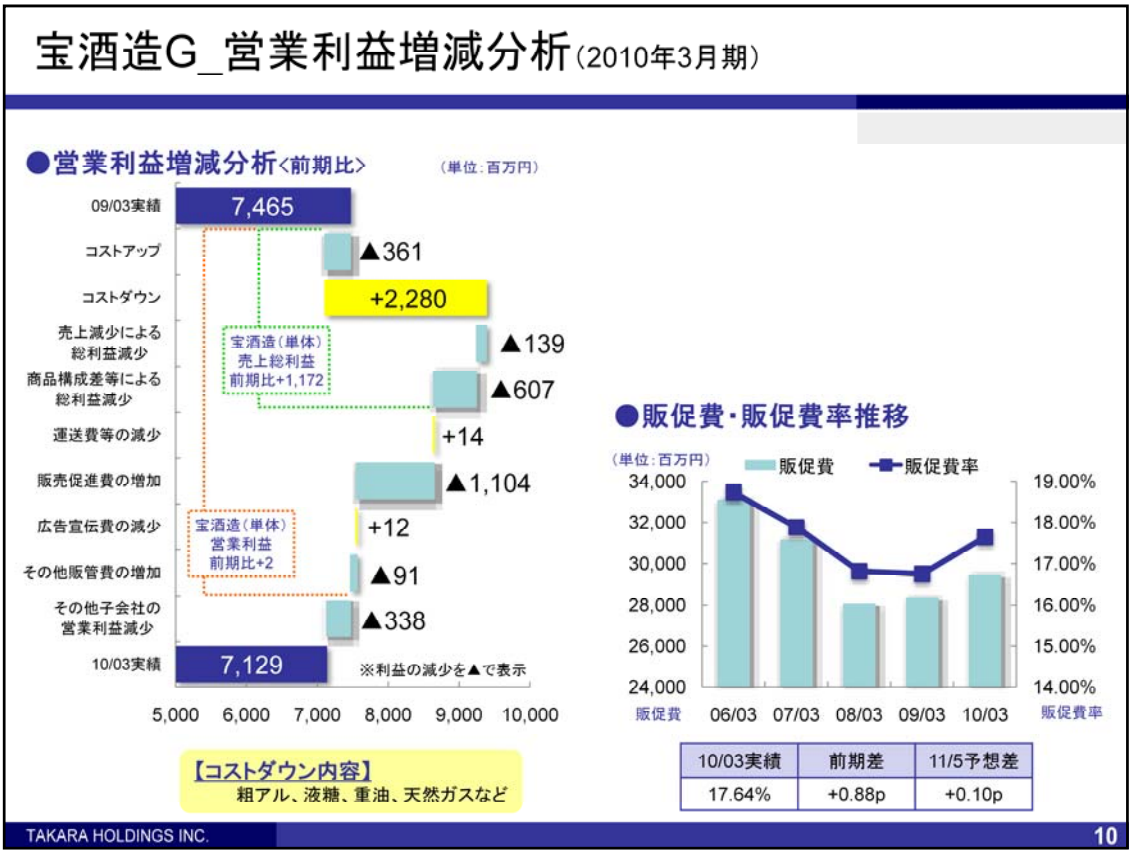
・酒類支出金額の前年同月比推移のグラフから分かるように、当期は不況の影響が大きく現れ、酒類支出金額は前年同月比100%を割り込んで推移しました。
・特に酒類の最需要期である12月にも大きく落ち込み、酒類事業を取り巻く環境は非常に厳しいものでした。

・酒類別課税移出数量の増減率の表からも分かるように、当期は特に下期に入ってから市場が冷え込みました。

・こうした影響を受け、乙類焼酎で1,111百万円、清酒で1,337百万円、その他酒類で1,263百万円などの減収となりました。

・一方、ソフトアルコール飲料では「焼酎ハイボール」が大きく売上を伸ばし、716百万円の増収となったほか、料理清酒が好調だったその他調味料で699百万円、工業用アルコールが好調だった原料用アルコール等で778百万円の増収となりました。

・なお、それぞれの項目に為替変動によるマイナスの影響が含まれています。



・営業利益の増減分析です。

・コストアップは361百万円となりましたが、原材料価格の落ち着きなどもあり、コストダウンは2,280百万円となり、差し引きコストダウンは1,919百万円となりました。
・売上減少や、商品構成の変化による総利益の減少はあったものの、宝酒造単体の売上総利益は前期比1,172百万円の増益となりました。

・販管費では、商品構成の変化による販売促進費の増加などがあり、宝酒造単体の営業利益は前期並みとなりました。

・一方、その他子会社で、物流会社や高級ワインの輸入販売会社が不況の影響を受けて営業減益となったため、宝酒造グループ全体でも営業減益となりました。

・また、長引く不況の影響で消費者の節約・低価格志向が一層高まり、商品構成が変化したため、売上高販売促進費率は上昇しました。

・2011年3月期の宝酒造グループの活動計画について、まずは国内酒類事業から説明します。

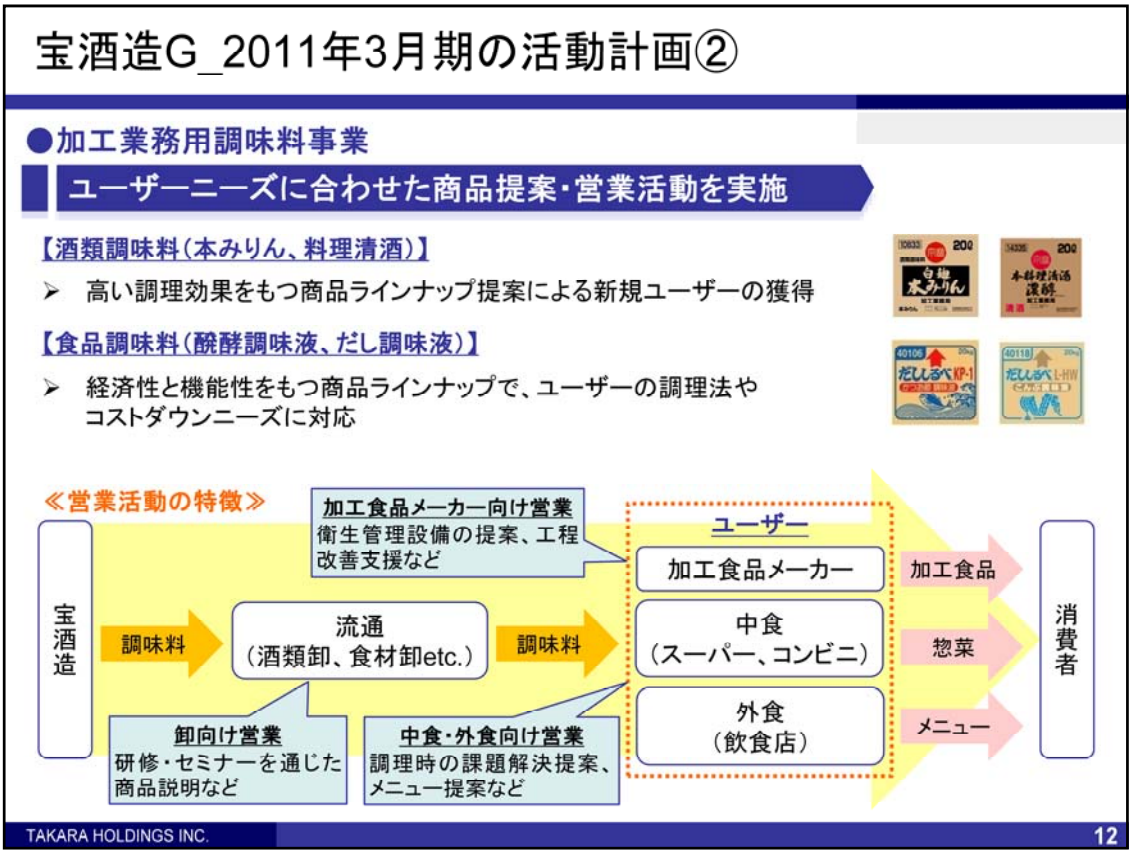
・金融危機以降、景気が低迷していますが、景気は循環するものであり、将来的な景気回復局面を見据えた戦略が必要です。
・しかし、一方では、消費者の節約・低価格志向への対応も必要です。

・このような中で、景気回復局面を見据えた戦略では、全量芋焼酎「一刻者」、本格麦焼酎「知心剣」、松竹梅「白壁蔵」＜生酛純米＞などの、こだわりゾーンの商品を育成します。
・一方、消費者の節約・低価格志向に対しては、極上＜宝焼酎＞、焼酎ハイボール、松竹梅「天」などの、スタンダードゾーンの商品で対応します。

・こだわりゾーンの商品も、スタンダードゾーンの商品も、差別化された品質で消費者の皆様から支持されており、不況下においても堅調に推移しています。
・消費者に支持される差別化ポイントをもった商品ラインナップで「消費の二極化」に対応します。

・全量芋焼酎「一刻者」では、引き続き、芋100%の差別化された品質優位性を訴求し、ブランド育成を継続します。
・本格麦焼酎「知心剣」では、全国各地の飲食店とタイアップしたファンづくりイベントを実施し、ブランド育成を加速させます。
・松竹梅「白壁蔵」＜生酛純米＞では、昨年より実施している「楽しむ会」を引き続き実施し、消費者の皆様に商品をお試しいただく機会を通して、ブランド育成を行います。

・極上＜宝焼酎＞では、樽貯蔵熟成酒をブレンドして、ほのかな味わいに仕上げている差別化ポイントを訴求する広告を展開します。
・焼酎ハイボールでは、電車の車内広告などの交通広告を中心に広告展開を行います。



・次に、成長事業として位置付けている加工業務用調味料事業について説明します。

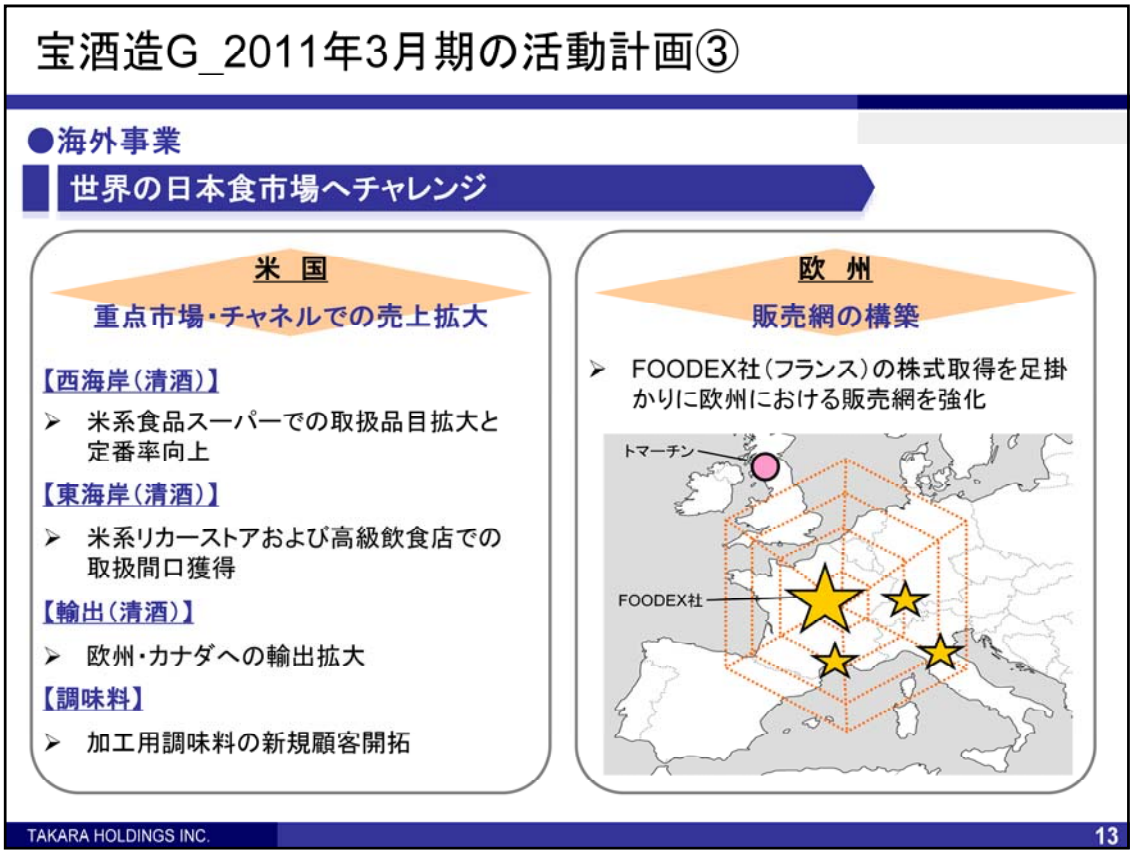
・加工業務用調味料事業では、新規大口ユーザーの獲得などが順調に進み、2010年3月期は、売上高で前期比5%程度の増収となりました。

・2011年3月期は、引き続き、ユーザーニーズに合わせた商品提案・営業活動を実施します。

・本みりん・料理清酒などの酒類調味料では、高い調理効果をもつ商品ラインナップを提案し、新規ユーザーの獲得に努めます。

・醗酵調味液・だし調味液などの食品調味料では、経済性と機能性をもつ商品ラインナップを提案し、ユーザーの調理法やコストダウンニーズに対応します。

・下の図は、加工業務用調味料事業の営業活動の特徴を示したものです。
・ユーザーニーズに合わせた商品提案に加え、それぞれのユーザーのもつ課題を解決する提案を行うことで、信頼関係の構築と取引数量の拡大を図っています。



・もうひとつの成長事業である、海外事業について説明します。

・米国宝酒造では、重点市場・チャネルでの売上拡大に努めます。
・具体的には、西海岸で、米国系食品スーパーにおける清酒の取扱品目拡大と定番率向上を促進し、東海岸では、米国系リカーストアや、高級飲食店への導入を促進します。
・また、欧州やカナダへの輸出も拡大させます。
・調味料では、加工用調味料の新規顧客開拓を進めます。

・一方、ヨーロッパでは、日本食材の輸入卸会社であるフーデックス社の株式を取得しましたので、これを足掛かりに、ヨーロッパにおける販売網を強化します。

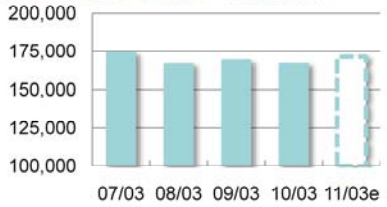
・フーデックス社は、フランス最大規模の日本食材の輸入卸会社であり、宝酒造グループとしてヨーロッパにおける卸事業に参入することで、日本食材流通の拡大および日本食文化のさらなる浸透を図るとともに、そのシナジーを活かして、清酒や調味料の売上拡大をめざします。

・また、海外事業全体でも人員を強化するなど、今後さらに成長を加速させていきたいと考えています。

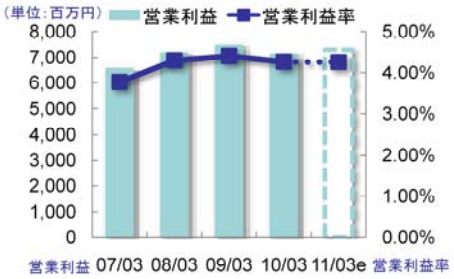
宝酒造G_2011年3月期　業績予想

（単位：百万円）	11/03 上期計画	前期比 増減	前期比 率(%)	11/03 通期計画	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	81,300	1,146	1.4	171,300	4,330	2.6
焼酎	38,100	46	0.1	76,400	185	0.2
清酒	7,600	11	0.2	21,100	△ 123	△ 0.6
ソフトアルコール飲料	12,100	713	6.3	22,700	1,414	6.6
その他酒類	4,600	△ 184	△ 3.8	9,700	△ 34	△ 0.4
本みりん	7,100	24	0.4	15,100	72	0.5
その他調味料	3,300	233	7.6	7,000	444	6.8
原料用アルコール等	2,800	△ 70	△ 2.5	6,400	175	2.8
その他	5,700	371	7.0	12,900	2,195	20.5
売上原価	51,300	567	1.1	106,800	2,753	2.6
売上総利益	30,000	579	2.0	64,500	1,576	2.5
販管費	27,700	817	3.0	57,200	1,405	2.5
運送費、保管料	3,100	91	3.0	6,600	306	4.9
広告宣伝費	1,700	△ 31	△ 1.8	3,700	△ 6	△ 0.2
販売促進費等	14,600	521	3.7	30,100	645	2.2
研究開発費	200	17	9.7	500	128	34.4
管理費、その他	8,100	218	2.8	16,300	332	2.1
営業利益	2,300	△ 237	△ 9.4	7,300	170	2.4

●売上高推移〈通期〉（単位：百万円）



●営業利益・営業利益率推移〈通期〉



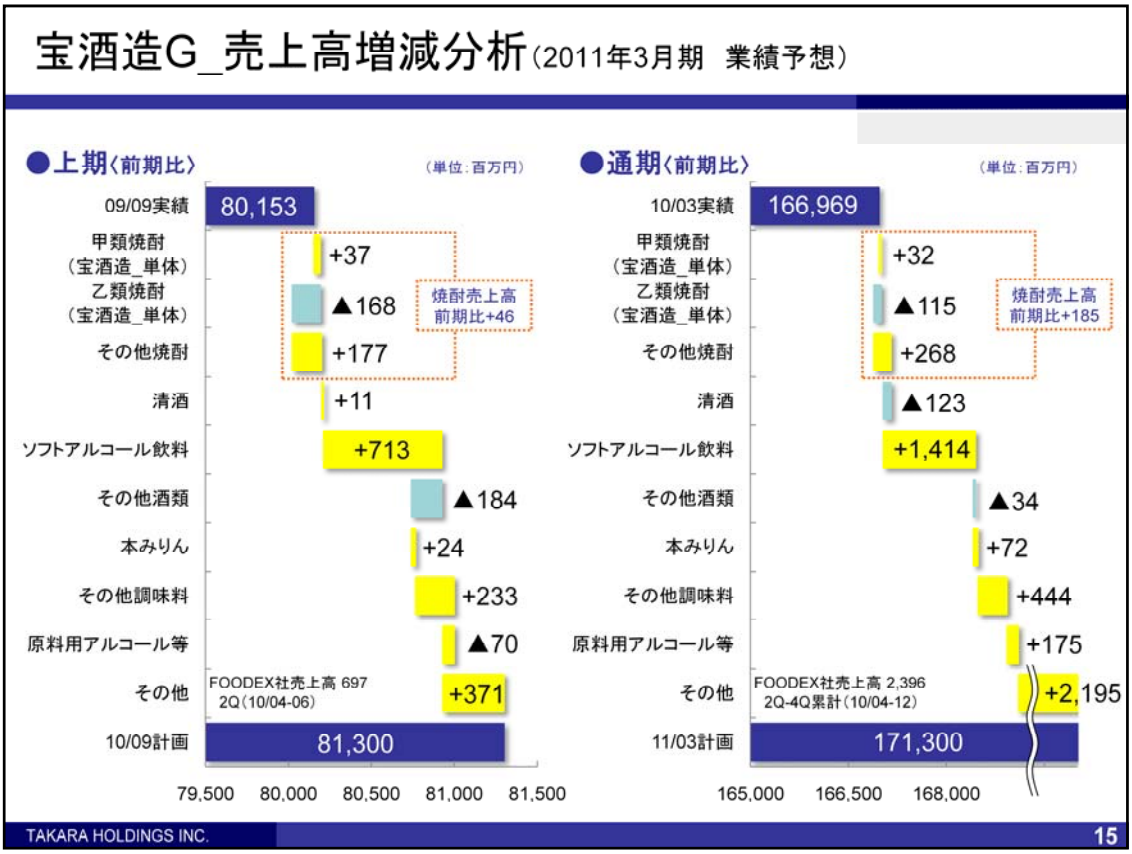
11/03計画	前期差
4.26%	-0.01p

TAKARA HOLDINGS INC.　14

・宝酒造グループの業績予想について説明します。

・2011年3月期は、為替変動の影響を売上高で▲418百万円、営業利益で▲33百万円見込んでいますが、売上高は4,330百万円増収の171,300百万円、営業利益は170百万円増益の7,300百万円の計画です。

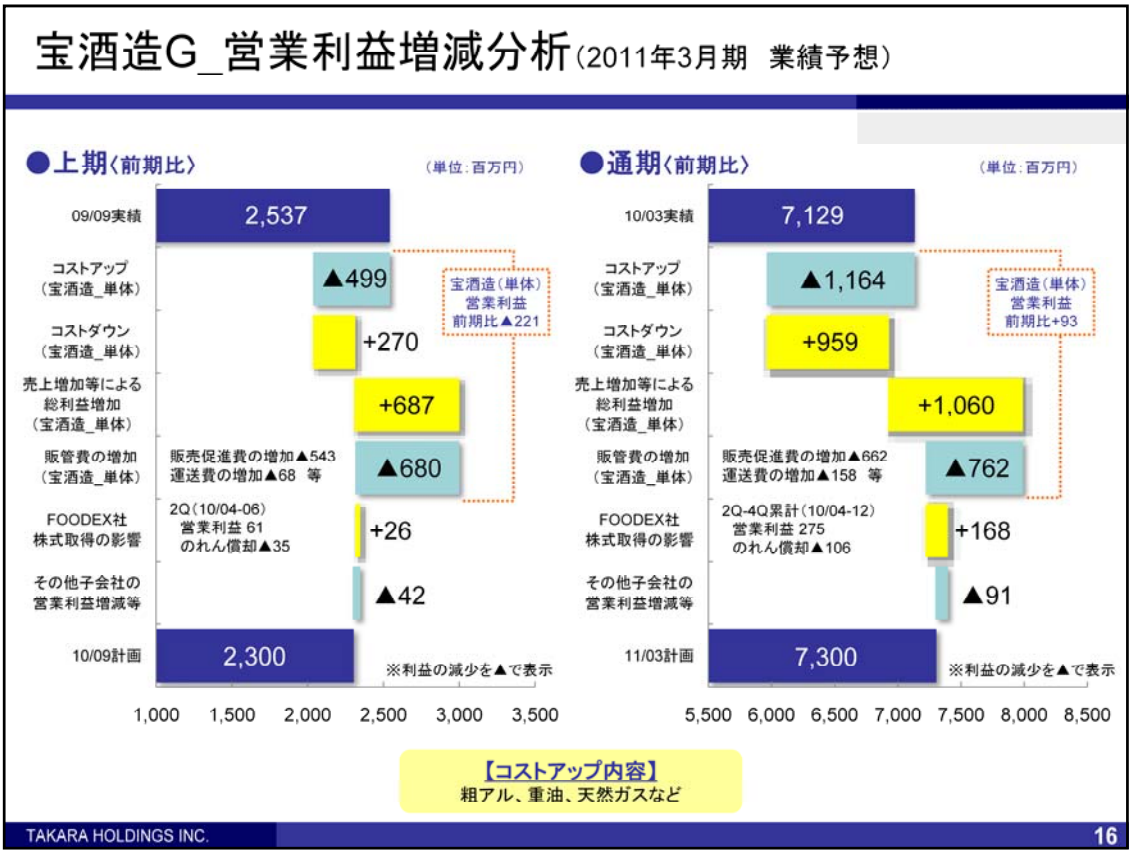
・上期は減益の計画ですが、その理由は、本格麦焼酎「知心剣」や、松竹梅「白壁蔵」＜生酛純米＞のファンづくりイベントの多くを上期に予定しているなど、販管費の増加を見込んでいるためです。



・売上高の増減分析です。

・上期・通期ともに、ソフトアルコール飲料での増収と、料理清酒を中心とするその他調味料での増収などを見込んでいます。
・ソフトアルコール飲料は上期713百万円、通期1,414百万円の増収、その他調味料は上期233百万円、通期444百万円の増収計画です。

・また、その他の増収の中にはフーデックス社の売上高を織り込んでいます。
・上期は第2四半期3ヵ月分の売上高として697百万円、通期では第2四半期から第4四半期まで9カ月分の売上高として2,396百万円を見込んでいます。



・営業利益の増減分析です。

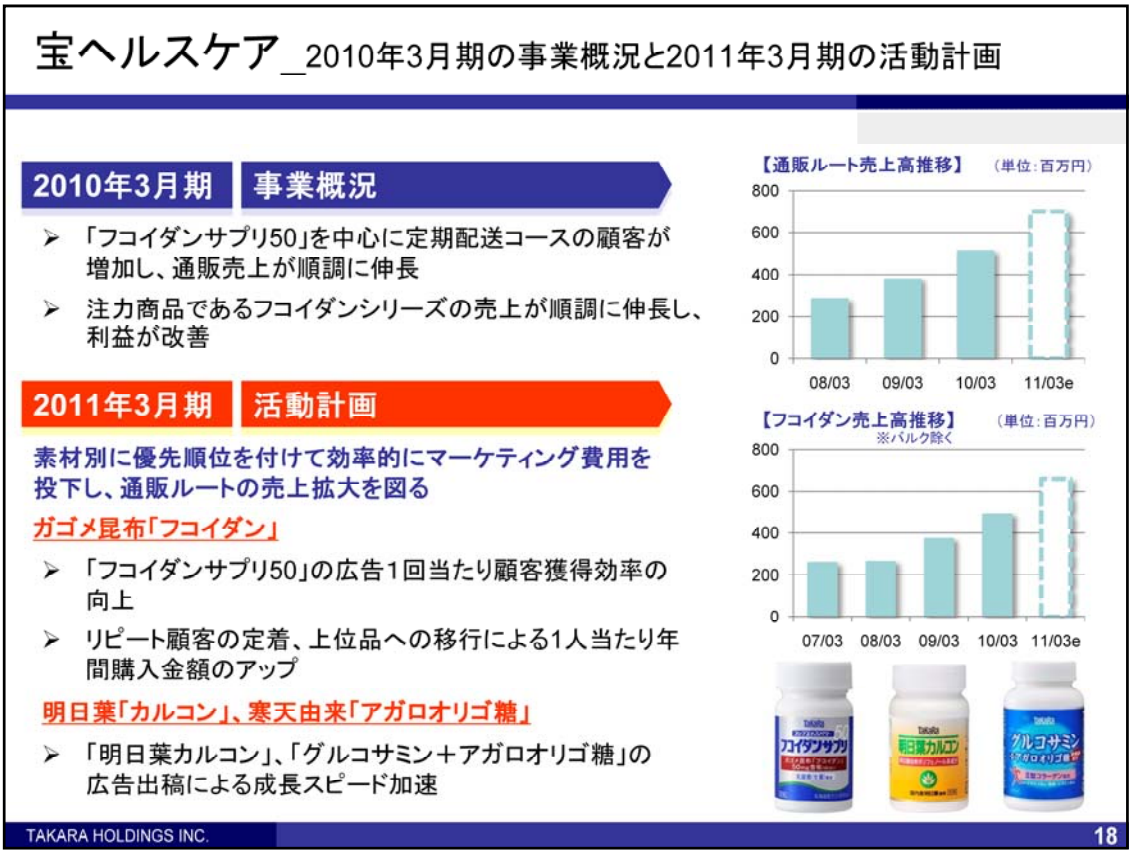
・上期は、コストアップ499百万円に対し、コストダウンは270百万円の計画で、差し引き228百万円のコストアップとなる見込みです。
・売上増加等による総利益の増加687百万円を計画していますが、販売促進費や運送費の増加によって、販管費が680百万円増加する見込みであり、宝酒造単体の営業利益は221百万円の減益を見込んでいます。

・通期では、コストアップ1,164百万円に対し、コストダウンは959百万円の計画で、差し引き204百万円のコストアップとなる見込みです。
・売上増加等による総利益の増加は1,060百万円となる一方、販売促進費や運送費の増加に伴う販管費の増加762百万円を見込んでおり、宝酒造単体の営業利益は前期並みとなる見込みです。

・フーデックス社の株式取得による営業利益への影響額は、のれんの償却を含めて、上期プラス26百万円、通期プラス168百万円を見込んでいます。

3. 宝ヘルスケア社概況

・宝ヘルスケア社の概況です。



・2010年3月期は、「フコイダンサプリ50」を中心に定期配送コースの顧客が増加し、通販ルート売上高が前期比35%増と大幅に拡大したほか、フコイダンシリーズの売上も順調に拡大し、収益が改善しました。

・2011年3月期は、素材別に優先順位を付けて効率的にマーケティング費用を投下し、通販ルートの売上拡大を図ります。

・優先順位の最も高いガゴメ昆布「フコイダン」では、「フコイダンサプリ50」の広告出稿1回当たりの顧客獲得効率の向上と、リピート顧客の定着および上位品への移行による、1人当たりの年間購入金額増加を促進します。

・明日葉「カルコン」・寒天由来「アガロオリゴ糖」では、テレビCMや新聞広告を展開し、成長スピードを加速させます。

4. 宝ホールディングス連結

2011年3月期　業績予想、活動計画

・宝ホールディングス連結の2011年3月期業績予想と活動計画について説明します。

宝HLD連結_2011年3月期　業績予想

（単位：百万円）	11/03 上期計画	前期比 増減	前期比 率(%)	11/03 通期計画	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	92,200	1,074	1.2	195,000	4,474	2.3
宝酒造G	81,300	1,146	1.4	171,300	4,330	2.6
タカラバイオG	8,589	△ 101	△ 1.2	19,350	25	0.1
その他	2,310	29	1.3	4,349	119	2.8
売上原価	56,900	694	1.2	118,400	2,594	2.2
売上総利益	35,300	380	1.1	76,600	1,880	2.5
販管費	33,000	1,017	3.2	67,800	1,653	2.5
営業利益	2,300	△ 637	△ 21.7	8,800	227	2.7
宝酒造G	2,300	△ 237	△ 9.4	7,300	170	2.4
タカラバイオG	△ 264	△ 255	-	800	246	44.6
その他	264	△ 144	△ 35.3	699	△ 190	△ 21.4
営業外収益	400	△ 145	△ 26.6	900	△ 23	△ 2.6
営業外費用	500	144	40.7	800	30	4.0
経常利益	2,200	△ 927	△ 29.6	8,900	172	2.0
特別利益	500	489	4,876.4	500	362	264.8
特別損失	500	386	340.7	600	△ 55	△ 8.5
税前当期純利益	2,200	△ 823	△ 27.2	8,800	591	7.2
法人税等	1,500	208	16.2	3,900	582	17.6
少数株主利益	△ 100	△ 125	-	200	△ 14	△ 6.6
当期純利益	800	△ 906	△ 53.1	4,700	22	0.5

TAKARA HOLDINGS INC.　20

・2011年3月期の業績予想です。

・上期の計画は、宝酒造グループで増収減益、タカラバイオグループで減収減益を見込んでおり、宝ホールディングス連結では増収減益の計画です。

・一方、通期の計画は、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに増収増益を見込んでおり、宝ホールディングス連結の売上高は前期比4,474百万円増収の195,000百万円、営業利益は前期比227百万円増益の8,800百万円を計画しています。

・為替変動の影響は、売上高で▲985百万円、営業利益で▲28百万円を見込んでいます。

宝HLD連結_2011年3月期の活動計画①

●第7次中期経営計画（2008年4月～2011年3月）の基本方針

成長投資と株主還元を通じ、中核事業の持続的安定成長と、成長事業育成の加速を実現し、企業価値の向上を目指す

●財務目標（第7次中計）

売上高2,000億円以上
経常利益100億円以上

（単位：百万円）	中計3年目計画	11/03計画	中計3年目計画比 増減	中計3年目計画比 率(%)
売上高	204,200	195,000	△ 9,200	△ 4.5
営業利益	10,200	8,800	△ 1,400	△ 13.7
経常利益	10,200	8,900	△ 1,300	△ 12.7
当期純利益	5,100	4,700	△ 400	△ 7.8

●財務戦略（第7次中計）

- 成長のための投資
  （成長事業、収益力強化のための投資）
  3ヶ年累計　100億円以上
- 株主還元総額（配当＋自己株式の取得）
  3ヵ年累計　100億円以上
- 株主還元性向　50%以上

$$\frac{\text{株主還元総額（配当総額＋自己株式取得総額）}}{\text{みなし連結当期純利益}} \geq 50\%$$

（連結経常利益－受取利息・配当金＋支払利息）×（1－法定実効税率）

2011年3月期の活動計画

- 13億円（250万株）を上限に自己株式取得予定
  （2011年5月11日発表）

（単位：百万円）	09/03	10/03	11/03計画	3ヵ年累計
自己株式取得総額	2,167	1,366	1,300	4,834
配当総額	1,810	1,789	1,767	5,367
株主還元総額	3,978	3,155	3,067	10,201
株主還元性向	79.0%	60.6%	57.1%	65.4%

TAKARA HOLDINGS INC.　21

・2011年3月期の活動計画を、最終年度を迎えた第7次中期経営計画と照らし合わせて説明します。

・第7次中計の基本方針は、「成長投資と株主還元を通じ、中核事業の持続的安定成長と、成長事業育成の加速を実現し、企業価値の向上を目指す」 というもので、最終年度である2011年3月期の財務目標として、「売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上」を掲げています。

・一方、本日説明した2011年3月期の業績予想では、売上高1,950億円、経常利益89億円の計画です。
・第7次中計の財務目標には届かない計画ですが、増収増益に向けて、活動します。

・財務戦略では、成長のための投資3ヵ年累計100億円以上、株主還元総額3ヵ年累計100億円以上、株主還元性向50%以上を掲げています。

・成長のための投資については、先ほどの説明の通り、フーデックス社の株式を取得しました。
・これを契機に、海外の酒類事業において一層の事業拡大をめざします。

・株主還元では、5月11日に発表した通り、13億円を上限に自己株式取得を予定しており、2011年3月期の株主還元総額は3,067百万円、株主還元性向は57.1%となる見込みです。
・この結果、3ヵ年累計では、株主還元総額10,201百万円、株主還元性向65.4%となり、財務の健全性を維持しながら、第7次中計で掲げた目標を達成する見込みです。

宝HLD連結_2011年3月期の活動計画②

●**事業戦略**（第7次中計）

	2011年3月期の活動計画
宝酒造グループ ▸ 国内酒類事業の収益力の維持・向上 ▸ 国内外の伸びる市場へのチャレンジ	➢ 国内酒類事業においてブランド育成を加速させ収益を確保 ➢ 加工業務用調味料事業および海外事業の成長を加速 ➢ 継続的なコストダウン施策で原材料価格の高騰に対応
タカラバイオグループ ▸ 遺伝子工学研究分野の事業拡大・安定化 ▸ 遺伝子医療分野における研究開発の推進 ▸ 医食品バイオ分野の収益改善	➢ 新製品投入や海外マーケティング強化による遺伝子工学研究分野の売上拡大 ➢ 遺伝子治療・細胞医療の商業化に向けた臨床開発を推進 ➢ 健康志向食品・キノコの販売拡大による医食品バイオ分野の収益改善
宝ヘルスケア社 ▸ 通信販売顧客の獲得	➢ フコイダンを中心に通販ルートの売上を拡大 ➢ 効率的な顧客獲得による収益改善

TAKARA HOLDINGS INC. 22

・事業戦略では、第7次中計で掲げたテーマを引き続き実行します。

・宝酒造グループでは、「国内酒類事業における収益力の維持・向上」と「国内外の伸びる市場へのチャレンジ」をテーマにしており、国内酒類事業において、ブランド育成を加速させ収益を確保するとともに、成長事業である加工業務用調味料事業および海外事業の成長を加速させます。
・一方で、原材料価格が再び高まる兆しが見え始めていますが、継続的なコストダウンで対応します。

・タカラバイオグループでは、「遺伝子工学研究分野の事業拡大・安定化」、「遺伝子医療分野における研究開発の推進」、「医食品バイオ分野の収益改善」をテーマにしており、新製品投入や海外マーケティングの強化による遺伝子工学研究分野の売上拡大と、遺伝子治療・細胞医療の商業化に向けた臨床開発の推進、健康志向食品およびキノコの販売拡大による医食品バイオ分野の収益改善に努めます。

・宝ヘルスケア社では、「通信販売顧客の獲得」をテーマにしており、フコイダンを中心に通販ルートの売上を拡大させるとともに、効率的な顧客獲得による収益改善を図ります。

・以上で、私からの説明を終了します。ご静聴ありがとうございました。

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社　IR室
E-Mail　ir@takara.co.jp

＜参考資料＞

宝HLD連結_営業外・特別損益（2010年3月期）

●営業外損益

（単位：百万円）	09/03 実績	10/03 実績	増減
営業外収益	**1,083**	**923**	**△ 159**
受取利息	342	**176**	△ 166
受取配当金	428	**309**	△ 118
持分法投資利益	7	—	△ 7
為替差益	—	**81**	81
受託研究補助金	19	**125**	106
その他	284	**230**	△ 54
営業外費用	**1,233**	**769**	**△ 464**
支払利息	281	**254**	△ 26
社債利息	325	**323**	△ 2
棚卸資産廃棄損	20	**16**	△ 3
持分法投資損失	—	**50**	50
為替差損	438	—	△ 438
その他	168	**124**	△ 43
営業外損益収支	**△ 149**	**154**	**304**

●特別損益

（単位：百万円）	09/03 実績	10/03 実績	増減
特別利益	**769**	**137**	**△ 632**
固定資産売却益	700	**8**	△ 692
投資有価証券売却益	16	**105**	89
その他	52	**23**	△ 29
特別損失	**1,277**	**655**	**△ 621**
投資有価証券評価損	524	**81**	△ 442
固定資産除売却損	208	**300**	91
係争和解費用	128	—	△ 128
たな卸資産評価損	95	—	△ 95
減損損失	229	**127**	△ 101
その他	90	**146**	55
特別損益収支	**△ 507**	**△ 518**	**△ 10**

宝HLD連結_B/S概要：資産（2010年3月期）

（単位：億円）	09/03 実績	10/03 実績	増減
流動資産	**1,167**	**1,207**	**40**
現金及び預金	255	**315**	59
受取手形及び売掛金	463	**457**	△ 5
有価証券	163	**142**	△ 20
たな卸資産	237	**242**	5
その他	47	**49**	1
固定資産	**740**	**747**	**6**
有形固定資産	440	**429**	△ 11
無形固定資産	44	**39**	△ 5
投資その他資産	255	**278**	22
投資有価証券	184	**210**	26
その他	71	**67**	△ 3
資産合計	**1,907**	**1,954**	**47**

- 現金及び預金 → TB +48.3 他
- 受取手形及び売掛金 → TS △3.0 他
- 有価証券 → TB △29.0 他
- たな卸資産 → TS +7.5、TB △2.1 他
- 有形固定資産・無形固定資産 → 当期の有形・無形固定資産の増減内訳
  - 新規取得 +36.4（TS +24.3、TB +10.6 他）
  - 減価償却 △48.3（TS △34.6、TB △12.3 他）
  - その他増減 △4.1
- 投資有価証券 → TH +28.7（時価評価 +29.4 他） 他

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産（2010年3月期）

（単位：億円）	09/03 実績	10/03 実績	増減
流動負債	421	516	95
支払手形及び買掛金	144	139	△ 4
借入金・社債	50	151	100
その他	226	225	△ 1
固定負債	433	346	△ 86
借入金・社債	255	155	△ 99
その他	177	190	12
負債合計	854	862	8
株主資本合計	941	955	14
資本金・資本剰余金	164	164	△ 0
利益剰余金	809	837	28
自己株式	△ 32	△ 46	△ 14
評価・換算差額等合計	△ 10	11	21
少数株主持分	122	125	3
純資産合計	1,053	1,092	38

1年内返済のシンジケートローン　TH +50.0、
（2010/01/31返済）固定負債より
1年内償還の社債　TH +50.0　他
第5回普通社債 50.0（2010/07/27償還）固定負債より

1年内返済のシンジケートローン　TH △50.0、
（2010/01/31返済）流動負債へ
1年内償還の社債　TH △50.0　他
第5回普通社債 50.0（2010/07/27償還）流動負債へ

自己株式取得　TH △13.6　他
2009年5月-6月に市場買付にて取得（株主還元策）
・取得株数　2,500,000株
・取得金額　1,366,209,000円

その他有価証券評価差額金　TH +17.5　他

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_キャッシュ・フロー（2010年3月期）

（単位：億円）	09/03 実績	10/03 実績	増減
営業CF（①）	**89**	**104**	**14**
税金等調整前当期純利益	81	**82**	0
減価償却費	50	**48**	△ 2
その他償却費	11	**9**	△ 2
運転資本増減	△ 1	**△ 0**	0
法人税等の支払額	△ 42	**△ 42**	0
その他	△ 10	**7**	18
投資CF（②）	**△ 77**	**△ 73**	**4**
固定資産の取得	△ 26	**△ 31**	△ 5
固定資産の売却	19	**0**	△ 19
有価証券・投資有価証券の取得	△ 35	**△ 1**	33
有価証券・投資有価証券の売却	0	**1**	0
子会社等株式・出資金の取得	△ 0	**—**	0
子会社等株式・出資金の売却	0	**—**	△ 0
その他	△ 36	**△ 41**	△ 4
フリーCF（①＋②）	**11**	**31**	**19**

	09/03	10/03	増減
売上債権	△0	5	6
棚卸資産	△7	△2	5
仕入債務*	7	△4	△11

*未払酒税含む

財務ＣＦ　△32億円

（内訳）	09/03	10/03
配当金の支払	△18	△18
自己株式取得・売却	△22	△13
ファイナンスによる収入	0	3
ファイナンスによる支出	△50	△1
その他	△2	△1
現金及び現金同等物増減	△92	0
現金及び現金同等物残高	336	336

宝HLD連結_P/L概要（2011年3月期　業績予想）

●グループ別 損益計算書

（単位：百万円）	宝HLD 連結	宝酒造 グループ	タカラバイオ グループ	その他
売上高	195,000	171,300	19,350	4,349
売上原価	118,400	106,800	9,121	2,478
売上総利益	76,600	64,500	10,229	1,870
販売費及び一般管理費	67,800	57,200	9,428	1,171
営業利益	8,800	7,300	800	699
営業外収益	900	400	224	275
営業外費用	800	300	24	475
経常利益	8,900	7,400	1,000	499
特別利益	500	—	—	500
特別損失	600	400	88	111
当期純利益	4,700	3,500	600	599

研究開発費	3,400	500	3,060	△ 160
減価償却費（有形・無形）	5,000	3,400	1,459	140

宝HLD連結_P/L概要（2011年3月期　業績予想）

●グループ別 損益計算書　第2Q累計

（単位：百万円）	宝HLD 連結	宝酒造 グループ	タカラバイオ グループ	その他
売上高	92,200	81,300	8,589	2,310
売上原価	56,900	51,300	4,218	1,381
売上総利益	35,300	30,000	4,371	928
販売費及び一般管理費	33,000	27,700	4,635	664
営業利益	2,300	2,300	△ 264	264
営業外収益	400	200	38	161
営業外費用	500	200	10	289
経常利益	2,200	2,300	△ 236	136
特別利益	500	—	—	500
特別損失	500	400	74	25
当期純利益	800	800	△ 360	360
研究開発費	1,700	200	1,457	42
減価償却費（有形・無形）	2,400	1,600	708	91

為替前提

●TaKaRaグループ　設定為替レート

	09/03	10/03				11/03e	
	実績	11/5 予想	実績	前期 差異	予算 差異	予算	前期 差異
ドル	103.49	92.00	93.65	-9.84	+1.65	85.00	-8.65
ポンド	192.71	145.00	146.61	-46.10	+1.61	145.00	-1.61
ユーロ	152.65	125.00	130.36	-22.29	+5.36	125.00	-5.36
元	14.90	13.00	13.71	-1.19	+0.71	12.50	-1.21
100ｳｫﾝ	9.63	7.00	7.37	-2.26	+0.37	7.00	-0.37

※子会社P/L換算用の平均レート
（09/03実績=2008年1-12月平均）
（10/03実績=2009年1-12月平均）

FOODEX社の概要（2010年4月30日_株式取得）

FOODEX社の概要		
名称	FOODEX SAS	
所在地	フランス パリ市	
事業内容	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業	
資本金	250千ユーロ	
設立年月日	1992年6月29日	
発行済株式総数	2,500株	
大株主及び持株比率	宝酒造株式会社	80.0%
	HANABI SARL	15.0%
	COFIMAT SC	5.0%
子会社（いずれも100%子会社）	FOODEX SARL（スイス） FOODEX SRL（イタリア） FOODEX SUD SARL（南フランス）	
従業員数	単体39名、連結46名	
決算期	12月31日	

最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態（簡易連結） 単位：千ユーロ

決算期	2007年12月期	2008年12月期	2009年12月期
連結純資産	3,922	4,743	5,898
連結総資産	5,770	7,742	8,989
連結売上高	14,942	18,832	23,854
連結営業利益	2,454	2,887	3,543
連結当期純利益	1,638	1,981	2,426

●利益・売上高推移 （単位：千ユーロ）